

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K04491

研究課題名（和文）国際化と連動するまちづくり手法の開発

研究課題名（英文）Development of community design methods linked to globalization

研究代表者

志村 秀明（Shimura, Hideaki）

芝浦工業大学・建築学部・教授

研究者番号：10333139

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、急速に進行している国際化を積極的に活用して地域に「多様性」をもたらす、まちづくりの更なる成果向上を図るために、国際化と連動するまちづくり手法を開発した。まちづくりの基本情報となる、外国人居住地区及び外国人観光客急増地区の市街地状況・景観状況の把握をし、外国人居住者と協働するまちづくり手法を開発し、国際的に注目度が高い東京湾岸地域における公共空間整備に関するまちづくりの実践的研究について国際的な議論を促進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

すでに我が国においては定着しているまちづくりとその手法に、国際化を利用することで「多様性」をもたらす、更なる成果をもたらす手法へとバージョンアップすると共に、まちづくりの手法を積極的に海外へ発信し、国際的な連携活動や共同研究へと発展させた。また開発した手法を用いて、外国人や市民、専門家と協働しながら、実際に東京湾岸地域においてまちづくりを実行し、地域のまちづくりの向上に貢献することができた。

研究成果の概要（英文）：This study developed community design methods linked to globalization in order to actively utilize the rapid progress of globalization to bring "diversity" to the region and further improve community design. As a result, this study as basic information for community design. 1) clarified the urban and landscape conditions in foreign residential areas and areas with a rapid increase in the number of foreign tourists. 2) developed a community design method for working with foreign residents. 3) facilitated international discussion on practical research on urban development regarding public space development in the Tokyo Bay area where has been the focus of much international attention.

研究分野：都市計画、まちづくり、地域デザイン

キーワード：国際化  
まちづくり ワークショップ 外国人居住者 インバウンド 公共空間活用 多様性 東京湾  
岸地域

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

国際化は、アジア地域の経済成長、インターネットの普及、国際的ビジネスの進展などによって、近年急速に進んでいる。日本から海外への進出する企業やN G O活動、大学生などの留学も増加しているが、海外から我が国を訪問する外国人観光客が急増している。外国人観光客を取り込み、地域を経済的に活性化するための様々な取り組みは、まちづくり活動の一つである。更に、東京都心部などの企業や大学などが立地する地域では、ビジネスや留学などで居住する外国人が急増している。これら外国人居住者は、自らのコミュニティ形成、国際交流活動・地域活動への参画、N P O活動へ参画するようになってきている。外国人居住者が、まちづくり活動に及ぼす影響を把握する必要性が高まっていると共に、外国人居住者を取り込み、連携するまちづくりの手法を開発することも社会的に強く求められている。

一方で、まちづくりは1980年代から日本各地で取り込まれるようになっており、地域資源を活用していくことで多くの成果を挙げている。地区レベルの身近な生活圏を改善していこうとする取り組みは、町内会や自治会、商店会といった既存の地域組織に加えて、専門家やN P O、大学、民間企業も一緒になって、まちづくり協議会といった組織を設立して活動している。しかし都心部では、既存のコミュニティが再開発などによって弱体化し、また若年層の参加が少ないといったことで高齢化が進んでいる。一定の成果は挙げているものの、歴史的建築物などの保全・活用や景観の保全と形成、地域文化の継承といった課題には十分に対処できていない。まちづくりにおいても、様々な意見を取り込んだ「多様性」が求められていると言えよう。そこで新たなコミュニティメンバーとなりえる外国人居住者をまちづくり活動へ巻き込むことによって、これらの課題に対処できることが期待されている。日本での外国人居住者は、高学歴者が多く、また特殊な技能を有する人物が多いと考えられ、かつ社会活動にも積極的である可能性が高いと思われる。具体的には、外国人居住者をまちづくり活動に巻き込むための手法、また外国人居住者と協働するための手法、国際的に情報発信して広く連携していただくための手法を開発することが強く求められている。

## 2. 研究の目的

本研究は、急速に進行している国際化を積極的に活用して地域に「多様性」をもたらし、まちづくりの更なる成果向上を図るために、国際化と連動するまちづくり手法を開発しようとするものである。具体的には、以下の3点を目的とする。

### (1)外国人居住者をまちづくり活動に取り込む手法の開発

まずは自治体やN P Oの協力を得ながら、中央区、江東区といった東京湾岸地域の外国人居住状況を把握する。次に、外国人居住者とコンタクトをとる手法を、地域での交流機会の創出とインターネット上の交流機会創出によって、N P Oやまちづくり協議会などと連携して社会実験を実施しながら開発し整理する。交流機会創出のための言語は、英語、中国語、日本語などを用いる。

### (2)外国人居住者と協働する手法の開発

まちづくりの手法として開発されている「まちづくりデザインゲーム」を基盤として、まち歩き、情報地図づくり、生活シーンイメージづくり、目標イメージづくり、目標空間イメージづくり、社会実験といった手法を、外国人が参画できる手法へとカスタマイズする。まずは、まちづくりデザインゲームの理論や方法論、基本的な手法を英訳する。それをもとに実際に外国人居住者と共にまちづくり活動を実践していくことで、多様化をもたらしつつも協働を可能にする手法を完成させる。

### (3)まちづくり活動と手法を国際的に情報発信し連携の輪を広げる手法の開発

すでに信頼関係を構築している海外の研究者らと意見交換しつつ、インターネットを用いて、実際の国際化と連動するまちづくりプロジェクトと手法について情報発信し、効果的にまちづくりの連携を広げる手法を実践的に開発する。

## 3. 研究の方法

### (1)外国人居住地区及び外国人観光客急増地区の市街地状況・景観の把握

外国人居住者をまちづくり活動に取り込む手法を開発するための基礎的知見を得るために、東京23区を対象として、外国人居住者や外国人観光客が多い地区を抽出し、それらの地区の市街地状況と景観形成の状況について明らかにする。

### (2)外国人居住者と協働するまちづくり手法の開発

すでに開発済みである「まちづくりデザインゲーム」をベースとして、中央区月島に2013年から開設している「月島長屋学校」を拠点として、実際に外国人と共にまちづくり活動を実践していくことで、多様化をもたらしつつも協働を可能にするまちづくり手法を完成させる。

(3)まちづくり手法を国際的に情報発信し連携の輪を広げる手法の開発

特に国際的な注目が高まっている東京オリンピック・パラリンピック 2020 大会と、コロナ禍の発生による公共空間の活用気運の高まり、の2つをテーマとする研究活動の成果を情報発信して、まちづくり手法に関する国際的な議論の活性化を試みる。

4. 研究成果

(1)外国人居住地区及び外国人観光客急増地区の市街地状況・景観の把握

外国人居住者が多い地区の市街地状況

総務省統計局の国勢調査データを元にして、外国人居住者の多い地区を町毎に地図にプロットすることで、外国人居住者が多い7つの「外国人居住エリア」を明らかにした(図1)。「新宿副都心エリア」「池袋副都心エリア」「赤羽低地エリア」「北部低地エリア」「東部低地エリア」「湾岸エリア」「都心エリア」である。港区を中心とする「都心エリア」を除いて、山手線沿いや23区縁辺部に存在する。

池袋副都心エリアでは、池袋、北大塚、東池袋、高田、南大塚、西池袋、上池袋、池袋本町、巣鴨における外国人居住者が多く、全人口の1割を超えている。日本語学校に通う若い単身者が多く、低層高密の市街地の中で、小規模集合住宅に居住していると考えられる。池袋西口では、中層の雑居ビルの中に中国系飲食店が入り、リトルチャイナの状況が形成されている。

東部低地エリアでは、大島、亀戸、清新町、小松川、西小岩、西葛西、平井、中葛西、船堀における外国人居住者が多い。インド人の居住割合が高い西葛西周辺では、リトルインディアと呼ばれる外国食材店が多い。

市街地状況は低層高密で、大規模なUR集合住宅団地や都営集合住宅団地が比較的多い。特に集合住宅地区で外国人居住者が多い。家族で居住する外国人が多いと考えられる。

以上のように、外国人居住者は自己の生活の利便性がよく、比較的賃貸料が安い低層密集市街地や公営集合住宅団地に多いことを明らかにした。

外国人観光客急増地区における景観形成の動向

外国人観光客の増加が著しい台東区浅草地区を対象として、Web調査やヒアリング調査、現地調査を通じて、商業系建物の外観デザインから景観要素を明らかにした。

まず「景観まちづくり協定地区」では、ファサード修景や統一看板を設置することで、「和風」「江戸風」の整備が行われている。協定地区以外では、街路灯整備や街路舗装整備を行い、「和風」の整備が行われている。

2011年から新規開業・改装した商業系建物は150件存在する。内、店舗が入れ替わり、リノベーションされた新規店舗が86%に達している。地区外から参入した事業者が大部分をしめており、1階部分のみの改装が7割を占める。外観デザインでは、「和風型」「簡易和風型」が7割以上を占めており、格子や装飾看板、のれんが多く使用され、素材としては木材が多く用いられていることを明らかにした(図2)。

以上のことから、低層高密な市街地や公営集合住宅団地は、外国人居住者が増加する傾向があ

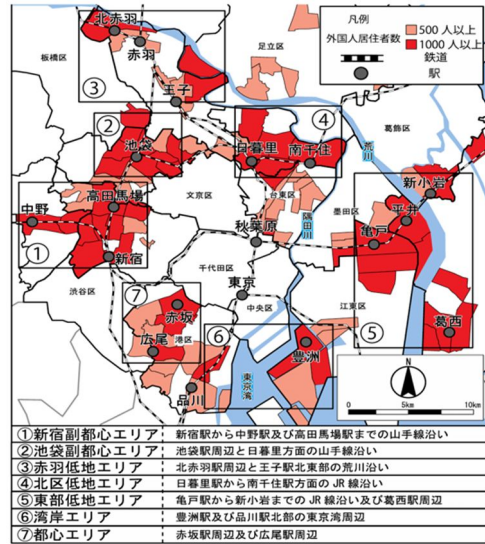


図1 外国人居住エリア

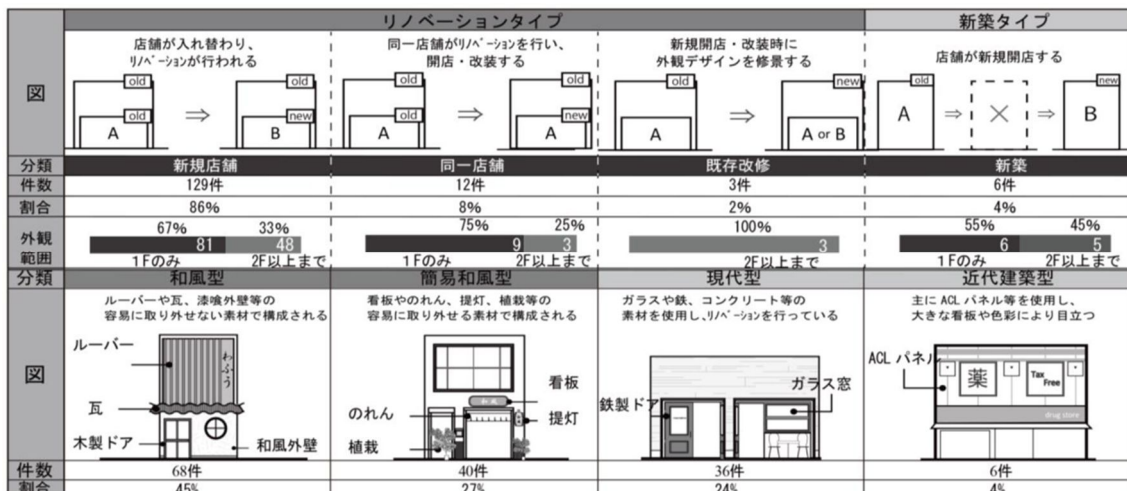


図2 商業系建物の外観デザイン

ることから、「多様性」をもたらすまちづくりが行われる可能性が高いこと、また景観形成が積極的に行われている外国人観光客急増地区では、建物の1階部分のファサードを和風へと改装する外観デザインが増加していることを明らかにした。

## (2) 外国人居住者と協働するまちづくり手法の開発

中央区月島に2013年から開設しているまちづくり活動拠点「月島長屋学校」では、外国人留学生や海外からの研究者・学生の見学を受け入れている。そのような下地を踏まえて、外国人が参加する一連のまちづくりイベントと、まちの見どころ発見・多言語化ワークショップを実験的に開催し、その効果を確認した。

外国人が参加する一連のまちづくりイベントの開発

一連のまちづくりイベントは、まず「Sense of Places game」を開催し、そこで参加する外国人は地区の歴史や文化の概略を理解する。それを踏まえて次に、「Photo Contest」を開催し、地区の特徴が見て取れる風景を写真とタイトル、説明文で構成するポスターで表現する。最後に、作成されたポスターを月島長屋学校の外壁に展示する「Photo Exhibition」を開催して、外国人と地元住民との地区に対する見方の違いなどについて意見交換を行う(図3)。

Sense of Places gameには、30名の外国人が参加した。ゲーム後に行ったアンケート調査の結果、参加者全員が楽しみながら、地区の歴史や文化を知ることができたことが分かった。Photo Contestには、22名の外国人が参加し、64枚のポスターが制作された。参加者は地区の特徴が見て取れる風景を数多く集めることができた。Photo Exhibitionでは、64枚のポスターから18枚のポスターを選出し、月島長屋学校の外壁に展示した。外国人と道行く地元住民との意見交換が行われ、また地元住民のポスターに対する評価を確認することができた。

以上のことから、一連のまちづくりイベントは、外国人が実際のまちづくり活動に参加することができる手法であると言える。

まちの見どころ発見・多言語化ワークショップ手法の開発

様々な国籍の外国人が参加するワークショップ手法を開発するために、芝浦工業大学の留学生を対象として実験的に「まちの見どころ発見・多言語化ワークショップ」を開催した。まず、日本人学生と住民、留学生が協働する「台紙」「位置マークシート」「人物イラストシール」「吹き出しシール」から成るワークショップツールを用いる手法の内容を示した(図4)。

留学生は、12カ国の国籍にわたる計28名が参加し、英語による日本人学生と住民との協働により、19枚の「まちの見どころシート」を作成することができた。

全ての留学生がワークショップに満足し、またほぼ全員が作成した「まちの見どころシート」について満足した。最終的に、英語、中国語、タイ語、マレー語、ポルトガル語、日本語の6カ国語に翻訳された最終成果物が完成した。

さらに最終成果物をインターネットで発信し、閲覧者へのアンケート調査を行った。結果として、閲覧した外国人と日本人のほぼ全員が「まちの見どころシート」の内容に満足し、このワークショップ手法が、対象地区における国際的なまちづくり活動に役立つと評価した。

以上のことから、一連のまちづくりイベントは、外国人が実際のまちづくり活動に参加することができる手法であると言える。

まちの見どころ発見・多言語化ワークショップ手法の開発

様々な国籍の外国人が参加するワークショップ手法を開発するために、芝浦工業大学の留学生を対象として実験的に「まちの見どころ発見・多言語化ワークショップ」を開催した。まず、日本人学生と住民、留学生が協働する「台紙」「位置マークシート」「人物イラストシール」「吹き出しシール」から成るワークショップツールを用いる手法の内容を示した(図4)。

留学生は、12カ国の国籍にわたる計28名が参加し、英語による日本人学生と住民との協働により、19枚の「まちの見どころシート」を作成することができた。

全ての留学生がワークショップに満足し、またほぼ全員が作成した「まちの見どころシート」について満足した。最終的に、英語、中国語、タイ語、マレー語、ポルトガル語、日本語の6カ国語に翻訳された最終成果物が完成した。

さらに最終成果物をインターネットで発信し、閲覧者へのアンケート調査を行った。結果として、閲覧した外国人と日本人のほぼ全員が「まちの見どころシート」の内容に満足し、このワークショップ手法が、対象地区における国際的なまちづくり活動に役立つと評価した。

以上のことから、一連のまちづくりイベントは、外国人が実際のまちづくり活動に参加することができる手法であると言える。

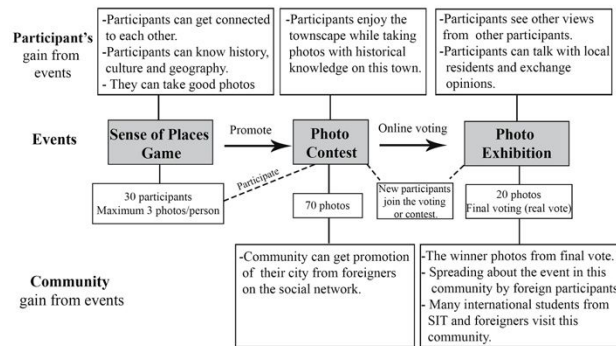


図3 一連のまちづくりイベント

WSの実施体制	
企画者	進行
日本人学生	補助
長屋学校メンバー	協力
	参加
	留学生

テーマと基本情報	作業内容
①はじめに ・所有時間: 20分 ・作業場所: 長屋学校	①企画者がWSの説明を行う。 ②その後自己紹介を行う。
②まち歩き ・所有時間: 80分	①企画者と長屋学校メンバーが各地点で地域資源の説明を行う。 ②留学生と長屋学校メンバーが協働に当たったことを中心に対話する。日本人学生は、対話の手助けと写真撮影を行う。
③成果物: シートの記入 ・所有時間: 45分 ・作業場所: 長屋学校	①企画者と成果物の作成方法を留学生に説明する。 ②留学生は日本人学生の誘導にしたがって、成果物を作成する。 追加の質問があったら長屋学校メンバーに尋ねることができる。
④まとめ ・所有時間: 5分 ・作業場所: 長屋学校	①留学生はアンケートに回答する。 ②企画者は留学生に多言語化への協力申請を行う。
⑤データ化作業 やり取りの方法: メール	①写真の挿入: 留学生がWSで選択した地域資源の写真と留学生の写真を挿入し、留学生が確認する。 ②文章の修正: 成果物の不備がある場合、企画者と留学生が話し合いを行い修正する。 ③似顔絵の作成: 留学生の写真をもとに似顔絵を作成する。手書きで書いたものをスキャナーで読み込み挿入する。挿入したものを留学生が確認する。 以上のことを踏まえて、手書きの成果物をデータの成果物に変換する。

成果物

成果物シート(全書き)

成果物シート(半書き)

まち歩きコース

1 月島長屋学校

2 散歩道

3 雷まちかど歴史館

4 稲屋敷さん

5 舟戸

6 住吉神社

7 住吉子屋さん

8 船天台地蔵堂

9 可成の園

10 もんじや餅會

11 もんじやストリート

12 メロンパン屋さん

13 稲屋敷センター

14 稲屋敷堂

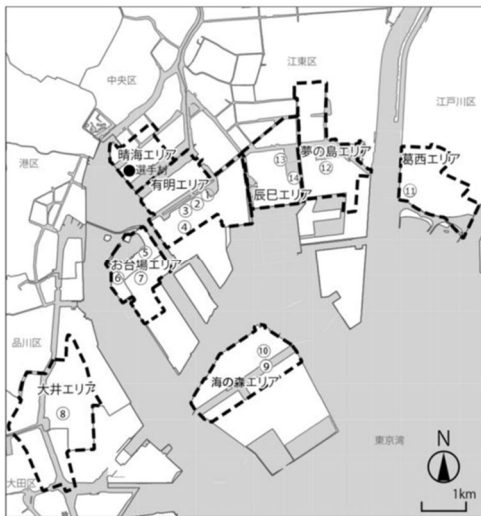
15 月島神社

16 大きなリクガメ

17 月島神社

18 リノベーションセンター

図4 まちの見どころ発見・多言語化ワークショップ



競技会場	施設状況	競技種類【PP】	収容人数	整備主	整備費【億円】	公園との関係	エリア	場所	公園の名称	面積【水域】[ha]	所轄
①有明アリーナ	新設恒久	バレーボール 【バレーボールコート ボール】	15,000	東京都	339	海上公園に隣接	有明エリア	江東区	「新設」有明緑地公園	33.6 【26.5】	港湾局
②有明BMXコース	仮設施設	自転車競技 スケートボード	5,000	五輪組織委員会	65	海上公園に隣接	有明エリア	江東区	「新設」有明緑地公園	33.6 【26.5】	港湾局
③有明体操競技場	仮設施設	体操【団体、新体操、トランポリン】 【エアアート】	12,000	五輪組織委員会	205.2	海上公園に隣接	有明エリア	江東区	「新設」有明緑地公園	33.6 【26.5】	港湾局
④有明テニスの森の公園	既存施設	テニス 【ハードコート】	20,500 (OP) 18,000 (PG)	東京都	144	海上公園の敷地内	有明エリア	江東区	「新設」有明緑地公園	16.3	港湾局
⑤お台場海浜公園	仮設施設	トライアスロン 水泳【500メートル スプリント】 【トライアスロン】	10,000	五輪組織委員会	15	海上公園の敷地内	お台場エリア	江東区	「新設」お台場中央海浜公園	51.1 【43.5】	港湾局
⑥青海公園	仮設施設	ビーチバレーボール	12,000	五輪組織委員会	12	海上公園の敷地内	お台場エリア	江東区	「新設」お台場中央海浜公園	15.5	建設局
⑦青海アーバンスポーツ	仮設施設	スポーツクライミング バスケケットボール 【3x3】 【5人制バスケ】		五輪組織委員会			お台場エリア	江東区	「新設」お台場中央海浜公園	26.4	港湾局
⑧大井ホッケー競技場	新設恒久	ホッケー	15,000 (OP) 14,000 (PG)	東京都	48	海上公園の敷地内	大井エリア	品川区	「新設」大井上緑中央海浜公園	45.4 【5】	港湾局
⑨海の森水上競技場	新設恒久	ボート カヌー【スラロム】 【ボートカヌー】	14,000	東京都	491	海上公園に隣接	海の森エリア	江東区	「新設」海の森公園	149.1 【54.5】	港湾局
⑩海の森クロスカントリーコース	仮設施設	総合体育		五輪組織委員会	20	海上公園の敷地内	海の森エリア	江東区	「新設」海の森公園	149.1 【54.5】	港湾局
⑪カヌー・スカローム会場	新設恒久	カヌー【スラロム】	12,000	東京都	73	都立公園に隣接	西葛西エリア	江戸川区	「新設」東葛西海浜公園【都立公園】	80.6	建設局
⑫アーチアリーナ会場（夢の島公園）	新設恒久	アーチery 【アーチery】	7,000	東京都	24	都立公園の敷地内	夢の島エリア	江東区	「新設」夢の島公園【都立公園】	43.3	建設局
⑬オリンピックアクアティクスセンター	新設恒久	水泳【短泳、シント ロイディスイミング 競泳】 【水泳】	20,000	東京都	683	海上公園の敷地内	辰巳エリア	江東区	「新設」辰巳の森海浜公園	16.9	港湾局
⑭東京辰巳国際水泳場	既存施設	水泳	5,000	五輪組織委員会		海上公園に隣接	辰巳エリア	江東区	「新設」辰巳の森海浜公園	16.9	港湾局
選手村	仮設施設	選手村の宿泊施設	17,000	民間	540	海上公園に隣接	晴海エリア	中央区	「新設」晴海公園	2.6	港湾局

図5 オリンピック・パラリンピック競技会場エリア

開発した手法は、地区の状況、月島長屋学校のようなまちづくり活動拠点の有無、また日本人学生と住民の英語力や意気込みといった条件によって成否や結果の質が左右されるが、一定の成果を得られる手法として参照できるものであり、有用性のある外国人と日本人が協働するまちづくり手法を開発できたと言える。

(3)まちづくり手法を国際的に情報発信し連携の輪を広げる手法の開発

国際的な注目度が高い東京湾岸地域における公共空間整備に関するまちづくりの実践的研究について情報発信を行った。

東京オリンピック・パラリンピック 2020 大会による東京湾岸地域の公共空間

オリンピック・パラリンピック競技会場が整備される海上公園には、「人口の多いエリア」「商業施設の多いエリア」「公共交通の利便性の良いエリア」「大規模イベント施設が多いエリア」などがある（図5）。

人口が多いエリアでは、人口が急増しており今後も再開発が予定されており更に人口が増加するエリアがある。商業施設が多いエリアは、来訪者の増加が予想されている。公共交通の利便性の良いエリアは、オリンピック・パラリンピックを契機として、来訪者が増加すると予想される。以上のことから、海上公園の利用者が増加する可能性が高いことを明らかにした。

設置管理許可制度を用いたパークマネジメント

多くのボランティア団体が施設運営を行っている江東区木場公園に 2020 年に整備されたパークマネジメント施設「Park Community KIBACO」（図6）を対象として以下のことを明らかにした。

多様な施設整備が整備され、かつボランティア団体が施設を運営している実績があることから、設置管理許可制度を用いた新たな取り組みとして、カフェやマルシェなどを併設する KIBACO は整備され、民間企業が運営している。

KIBACO は、イベントの開催や防災活動で、ボランティア団体といった施設運営団体と連携している。

隣接する施設の利用者が増えると KIBACO 利用者も増加する。各施設と KIBACO は、相互に利用を促進し合っている。施設だけではなく、公園内のベンチなどの休憩スペースの利用も、KIBACO や各施設の利用者増加にともなって促進されている。

以上明らかにしたような公共空間の活用に関するまちづくり手法は、コロナ禍によって益々注目されていることから、国際会議で発表し、国際的な議論を促進した。

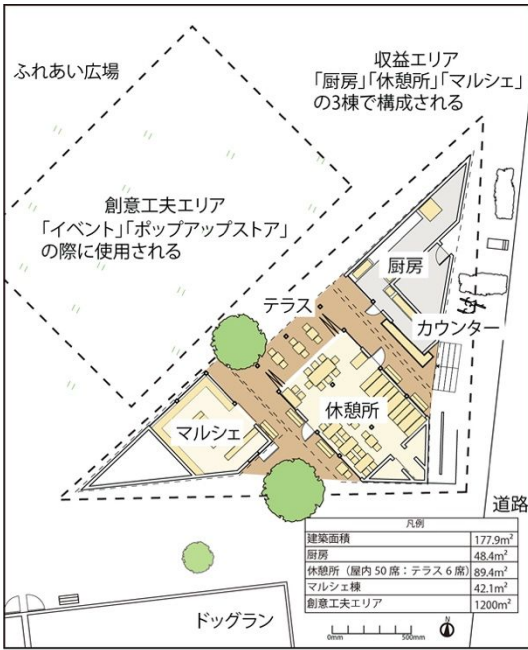


図6 Park Community KIBACO

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 大堀健太、志村秀明	4. 巻 Vol.57, No.1
2. 論文標題 水辺と高架下空間を含む公共空間の一体的整備・活用の検討方法 -東京都墨田区北十間川周辺地区の事例報告-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大堀健太、鈴木はるか、志村秀明	4. 巻 27, 第65号
2. 論文標題 公共施設再編ゲームの開発 静岡県富士宮市での取り組みを事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 475-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haruka Suzuki, Hideaki Shimura	4. 巻 2021
2. 論文標題 Development of the method of discovery of Town features and multilingualization in collaboration among foreign students, Japanese students and local residents -Case study in Tsukishima, Chuo Ward, Tokyo-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SEATUC 2021symposium proceedings	6. 最初と最後の頁 116-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉 洋辰、志村秀明	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 外国人観光客急増地区における景観形成の動向に関する研究 -東京都台東区浅草地区を事例として-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1075-1076
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長岡修平、志村秀明	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 小規模独自店舗の出店要因に関する研究 -東京都世田谷区三軒茶屋駅周辺地区を対象として-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 969-970
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松尾夏奈、佐藤直人、外山裕太、長岡修平、樋口雅樹、鈴木はるか、大堀健太、志村秀明	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 市民が参加する「公共施設再編ゲーム」の開発に関する研究 -静岡県富士宮市での取り組み-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 121-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外山裕太、志村秀明	4. 巻 都市計画
2. 論文標題 学生主体による空き家改修を中心とする地域活動に関する研究 -建築系学生有志団体空き家改修プロジェクト-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1099-1100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沼大暉、萩野正和、志村秀明	4. 巻 Vol.53, No.1
2. 論文標題 水辺公共空間の活用を促進するための運営に関する研究 -東京都隅田川流域と湾岸地域における実態を対象として-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松尾夏奈、志村秀明	4. 巻 Vol.53, No.3
2. 論文標題 公共空間としての川床創出の促進に関する研究 -東京都江東区清澄白河での社会実験の経緯と実態-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 488-494
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長岡修平、佐藤直人、志村秀明	4. 巻 第25巻、第59号
2. 論文標題 まちづくりイベント「こどもみちおえかき」手法の開発 -月島長屋学校での取り組み-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 407-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外山裕太、志村秀明	4. 巻 第25巻、第59号
2. 論文標題 水辺公共空間における現地・原寸ワークショップ手法の開発 -東京都墨田区北十間川周辺地区での取り組み-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 401-408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Xu Jiaqi, Hideaki Shimura	4. 巻 2023
2. 論文標題 STUDY ON THE PARK MANAGEMENT BY INSTALLATION-MANAGEMENT PERMISSION - CASE ANALYSIS OF KIBACO, KIBA PARK, KOTO-KU, TOKYO -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SEATUC 2023symposium proceedings	6. 最初と最後の頁 218-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 安達匠, 志村秀明
2. 発表標題 まちなか広場における歩行行為と滞留行為に関する研究 - 八戸マチニワを事例として -
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木 優太, 志村 秀明
2. 発表標題 地域連携型パークマネジメントに関する研究 - 東京都江東区立豊洲ふ頭内公園を事例として -
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩間康樹, 志村秀明
2. 発表標題 木造リノベーション店舗の特性に関する研究 - 東京都中央区佃・月島を事例として -
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高文君, 志村秀明
2. 発表標題 コロナ禍における景観保全観光地区の店舗の動向に関する研究 - 埼玉県川越市重要伝統的建造物群保存地区を事例として -
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruka Suzuki, Hideaki Shimura
2. 発表標題 Development of the method of discovery of Town features and multilingualization in collaboration among foreign students, Japanese students and local residents -Case study in Tsukishima, Chuo Ward, Tokyo-
3. 学会等名 SEATUC 2021symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達 匠、志村秀明
2. 発表標題 観光客急増地区における景観形成の動向に関する研究 埼玉県川越市を事例として
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Wang Weitong、志村秀明
2. 発表標題 外国人居住地区の特性に関する研究 東京23区を事例として
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenta Ohori, Haruka Suzuki, Liu Yangchen, Hideaki Shimura
2. 発表標題 A Study on Public Space Improvement in the Tokyo Bay Area due to the Tokyo Olympic and Paralympic Games
3. 学会等名 SEATUC (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruka Suzuki, Hideaki Shimura
2. 発表標題 Development of the method of discovery of town features and multilingualization in collaboration among foreign students, Japanese students and local residents -Case study on Tsukishima in Chuo Ward, in Tokyo-
3. 学会等名 Walk21 Rotterdam (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Liu Yangchen, Shimura Hideaki, Sato Naoto, Sotoyama Yuta, Nagaoka Shuhei, Higuchi Masaki, Matsuo Kana
2. 発表標題 A Study on the Method of Community Design Events for Foreign Participants
3. 学会等名 Great Asian Streets Symposium 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuo Kana, Shimura Hideaki, Sato Naoto, Sotoyama Yuta, Nagaoka Shuhei, Higuchi Masaki, Liu Yangchen
2. 発表標題 Development of a Community Design House by Collaboration between the University and Residents -A Case Study on Tsukishima Nagaya School-
3. 学会等名 Great Asian Streets Symposium 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuo Kana, Shimura Hideaki, Sato Naoto, Sotoyama Yuta, Nagaoka Shuhei, Higuchi Masaki, Liu Yangchen
2. 発表標題 Design as Democracy Techniques Market: Rebuilding Design Game
3. 学会等名 Great Asian Streets Symposium 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumu Shimizu, Shunpei Onishi, Hideaki Shimura
2. 発表標題 A Study on Development of Oral History Video Map for Community Design
3. 学会等名 SEATUC 2019 Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉 洋辰、志村秀明
2. 発表標題 東京オリンピック・パラリンピック競技大会計画による東京湾岸地域の公共空間整備に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長岡修平、志村秀明
2. 発表標題 まちづくりイベント「こどもみちおえかき」手法の開発に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 外山裕太、佐藤直人、松尾夏奈、志村秀明
2. 発表標題 現地・原寸ワークショップ手法の開発に関する研究 -東京都墨田区北十間川周辺地区での取り組み-
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口雅樹、志村秀明
2. 発表標題 船着場をとまなう水辺空間の賑わいづくりに関する研究 -東京都舟運社会実験に着目して-
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木優太、志村秀明
2. 発表標題 営農型太陽光発電施設と景観に関する研究
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 峯村溪太、志村秀明
2. 発表標題 歩行者が中心となる街路空間の計画手法に関する研究 -東京都江東区清澄白河地区での検討-
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 徐佳綺、志村秀明
2. 発表標題 設置管理許可制度を用いたパークマネジメントに関する研究 -東京都江東区木場講演KIBACOを事例として-
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Xu Jiaqi, Hideaki Shimura
2. 発表標題 STUDY ON THE PARK MANAGEMENT BY INSTALLATION-MANEEMENT PERMISSION - CASE ANALYSIS OF KIBACO, KIBA PARK, KOTO-KU, TOKYO -
3. 学会等名 SEATUC 2023 symposium
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 志村秀明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 176
3. 書名 建築・まちづくり学のスケッチ	

1. 著者名 Shigeru Satoh, Hideaki Shimura, other 15	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 270
3. 書名 Japanese Machizukuri and Community Engagement -History, Method and Practice	

1. 著者名 志村 秀明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 216
3. 書名 東京湾岸地域づくり学	

1. 著者名 志村秀明、芝浦工業大学地域共創センター	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三樹書房	5. 総ページ数 231
3. 書名 大学とまちづくり・ものづくり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------